



みんなでつくる

ふれあいの大屋根

“滝沢村交流拠点複合施設”

住民が集う場として、大屋根の下、麓に出来た集落のように顔を出す様々な交流施設がにぎわいをつくります。

ROOF NEWS Vol.9

※屋根の英単語 ROOF をとり、タイトルとしました。

平成 25.11.19 滝沢村（交流拠点整備室）

ROOF1 第6回のワークショップ（全体会）が開催されました

滝沢村の鶴飼地区に計画されている交流拠点複合施設のワークショップ(全体会)が10月3日に、滝沢村公民館・視聴覚室にて行われました。

今回は、実施設計終盤に向け、平面配置案の確認、詳細仕様などの確認を中心に協議を行いました。

ROOF2 第6回検討ワークショップ（全体会）の概要

今回のワークショップでは、これまで検討してきた実施設計配置・平面・断面・立面計画、家具や備品計画のほか、外構（施設の外回り）計画、バリアフリー・サイン、再生可能エネルギーなどについて新たな資料が加わり議論を重ねたものです。

最後にコーディネーター・三宅諭先生（岩手大学）と建設推進委員長・狩野徹先生（岩手県立大学）から実施設計をまとめる上での配慮事項等のご意見をいただきました。



第6回ワークショップの様子
(全体会)



第6回ワークショップの様子
(狩野徹先生（右）と三宅諭先生（左）)

ROOF3 ワorkshop結果概要

ホール部会

ホール部会からは、色分けによる誘導は良いが、ドアの形状と「たきざわ」のTを組み合わせたものが病院のイメージを感じさせる。ドアそのものを色分けしては、といった意見が出されました。

図書館部会

図書館部会からは、修理本を移動するカートは2台必要、児童コーナーのテーブルやイスは子供用はもちろんだが親のための大人用も必要、記載台や検索パソコンの高さは子供や車椅子利用者も使え

るようにもっと低く、などの意見が出されました。

また、図書館側が閉館の場合の2階からの階段にドアがあるかの確認や、図書館のバックヤードをもっと広くして欲しい、などの意見も出されました。

なお、図書館備品について、現在使用中の備品類を参考にしながら検討するとともに、新築後も使えるものがないか確認することになりました。

コミュニティ部会

コミュニティ部会からは、クッキングスタジオの食器棚が小ぶりではないか、大判シンクのサイズの確認、市民活動支援センターの貸し出しロッカーの数が少ないか、などの意見がありました。

また、喫煙する場所を設けるか、全館禁煙とするかなどを早めに決めるべき、との意見もありました。

バリアフリー、サイン計画について

サイン計画については、全体的にサインが小さくないか、もっとオーソドックスなものが良い、トイレについては廊下から見えやすいように突き出たものがよい、などの意見が出されました。

今後検討を加えると共に、サインの大きさについては、建築が進んだ段階で現場で実際の見本を用意し、検討することもあるとの説明がありました。

外構計画について

カラータイルの部分はすべるのではないかと、誘導点字ブロックは県道を横断する場合は信号機とセットになるように、樹種の吟味をもう少し、ペットをつなぐ備品が欲しい、ヘリポートの表示方法や、屋外のスピーカー、照明について質問があり、外壁のデザインなども含め、今後検討していくことを確認しました。



第6回全体会ワークショップのまとめ
(上と下)



ROOF4 講評

三宅諭先生（岩手大学）より

今回はサインに対する意見が多かったが、今後変更できる部分とできない部分があることは理解した上で検討を進める必要があり、またこのようないろいろな議論を進めていくことが、今後の管理運営において重要な視点であるとの意見を頂きました。

狩野徹先生（岩手県立大学）より

今回はサインを含めたバリアフリーの意見が多く出ていたが、今後工事が進んでいる中でも解決できる事柄があると思うので、みなさんの意見を伺いながら検討をお願いしたいとの意見を頂きました。

ROOF5 まとめ

実施設計がとりまとめられ、いよいよ工事（造成工事）の着工が近づきます。引き続きROOF NEWSでお知らせしていきますので、よろしくお願い致します。